

## 松野元徳

---

差出人: 松野元徳  
送信日時: 平成 15年9月9日 火曜日 16:18  
宛先: 保安院 野田様  
件名: 耐震指針検討へのお願い

関連付けられた連絡先: 保安院 野田様

原子力安全・保安院  
原子力発電安全審査課  
野田 様

原子力安全委員会事務局の松野といたします。

たいへんお世話になっております。

標記の件につきまして、昨日、保安院と原安委事務局との間で打ち合わせを行ない、今後の分科会及び地震動WGの開催にむけて、当方から「耐震指針検討へのお願い」ということで、説明をさせていただきました。

来月の28日に、地震動WGの第11回会合を開催いたしますが、その時の議題として、以下の4つの議題を考えております。

- 震源を特定できない地震(確率論) (お願い済)
- ▶鳥取県西部地震の地震動の扱い
- 地震地体構造の扱い
- コメント回答の扱い(第10回会合までの各委員の意見に対して)

そのうち、4番目の「●コメント回答の扱い(第10回会合までの各委員の意見に対して)」につきまして、添付のとおり、「地震動WGコメント回答状況」としてとりまとめましたので、お取り計らい願います。

なお、この「地震動WGコメント回答状況」の表の中に、発言者として委員名が記載されておりますので、取扱い注意でお願いいたします。

ご多忙中たいへん恐縮でございますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



地震・地震動WGコ  
ト回答状況.jtd (4)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

内閣府原子力安全委員会事務局  
審査指針課 松野 元徳

〒100-8970

千代田区霞が関3-1-1

中央合同庁舎第4号館6階

TEL03(5243)2111(内線44753)

03(3581)9987

FAX03(3581)9836

E-mail

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

平成 15 年 9 月 9 日

## 地震・地震動WG コメント回答状況

回	コメント	発言者	コメント回答
第 1 回	S <sub>1</sub> とS <sub>2</sub> の定義について 諸外国での地震動の設定の事例	入倉グループリーダー 衣笠委員、入倉グループリーダー	
第 2 回	震震W第 2 - 1 号の今後の課題の項目の追加 震震W第 2 - 2 号の資料の修正 女川原子力発電所の審査時において、一関-石越撓曲線をS <sub>1</sub> またはS <sub>2</sub> 地震動の震源として評価が行われたのか。	阿部委員 衣笠委員、平野委員 衣笠委員	第 3 回で回答済。(震震W 3 - 3 号) 第 3 回で回答済。(震震W 3 - 4 号) 平成 14 年 6 月 2 8 日、衣笠委員へ説明し、ご了解済。
第 3 回	S <sub>2</sub> の想定として、歴史地震と活断層の他に地震発生論とかテクトニクスを考慮して検討する。 S <sub>1</sub> とS <sub>2</sub> を切り分けするのもしないのか。	石橋委員 入倉グループリーダー	
第 4 回	再来期間というより「評価期間」を用いるのか。言葉の使い方を検討せよ。 震震W第 4 - 2 号の資料の修正 地震地体構造という概念は如何か。マップの上限値にも疑問がある。 スラブ内地震という言葉の定義をせよ。	入倉グループリーダー、阿部委員、石橋委員、衣笠委員、小島委員 大竹委員、石橋委員、佃委員 石橋委員 石橋委員	
第 5 回	断層モデルの手法の整理	翠川委員	第 7 回で回答済。(震震W 7 - 1 号)

回	コメント	発言者	コメント回答
第6回	津波に関する追加資料 津波と地殻変動の複合 砂移動について 海底地すべりについて	石橋委員、阿部委員 佃委員 衣笠委員 大竹主査代理	第7回で回答済。(震震W7-1号) 平成15年3月12日、佃委員へ説明し、ご了解済。 平成15年3月18日、衣笠委員へ説明し、ご了解済。
第7回	震震W第7-1号コメント回答P3 包括波形の重ね合わせによる評価法の特徴を記入 「震源深さや地盤種別」→「地震種別」 再処理ユーティリティ施設でのゴムの変位について 床免震と機器免震について 再処理ユーティリティ施設の指針について キャスク建屋についての文章の修文	翠川委員 石橋委員 衣笠委員 阿部委員 青山主査	第8回で回答済。(震震W8-1号) 第8回で回答済。(震震W8-1号) 第8回で回答済。(震震W8-1号) 第8回で回答済。(震震W8-1号)
第8回	道路橋示方書「変位の検討について」如何。 安全委員会としての「安全目標」、「指針の体系化」、「リスクインフォームド規制」の流れの中で耐震指針の考え方。	衣笠委員 入倉グループリーダー、阿部委員、大竹委員、平野委員	「分科会で回答予定」(鈴木安全委員)
第9回	上下動(P47)上下方向設計用減衰定数の設定根拠。 上下動の三次元的な検討の是非。 SRS法と時刻歴の比較 水平、上下の関連の記録の検証が行われているのか。 鳥取県MT法の直交方向の検討如何。	翠川委員 大竹主査代理 入倉グループリーダー 大竹主査代理	

回	コメント	発言者	コメント回答
第 10 回	<p>Coyote Lake と Morgan Hill 地震では近くに断層があったのでは。</p> <p>地表地震断層と震源断層はサイズが一致しない（1943 の鳥取の例）ので地震動レベルを間違える恐れがある。日本で議論になる <math>M_j</math> を 6.8 とか 7.0 にして、たとえ米国では震源が特定できたデータとしてもそれを用いて地震動レベルを決めるというやり方もある。</p> <p><math>M_j 6.8</math> 以上ならば震源は推定できると言い切れるか疑問がある。理由としては、スケーリング則による濃尾地震のプロットによってしきい値が変わってくること、また、地質の専門家の間でも意見が異なることである。</p> <p>地震発生層 W によってローカリティーを出せないか。</p>	<p>衣笠委員</p> <p>石橋委員</p> <p>石橋委員</p> <p>小島委員</p>	